

平成25年守谷市議会第1回定例会会議録

平成25年3月 市政に関する一般質問

〔19 番梅木伸治君登壇〕

○19番(梅木伸治君) 午前中微妙な時間をいただきましての一般質問でございます。10分程度オーバーするかもしれませんが、議長並びに各議員のご協力をお願いしたいと先に申し上げたいと思います。さて、時間もございませんので、早速質問内容に入っていきたいと思います。今回は、健康寿命についてということでございます。さき、25年3月1日ですね、読売新聞において、長寿日本一男女とも長野県ということが、新聞に書かれておりました。長寿日本一の長野県は、高齢者の就労率が高く、野菜の摂取量が5位で、食生活改善ボランティアや、医師らの地域保健活動がさかんなことなどが積み重なった成果ではないかと、しているというようなコメントがございます。この中で、食生活改善ボランティアと、いわゆる、その食べるもの、野菜も摂取量も含めて、非常に大切なことなんだということが、ここに書かれておりますので、次の質問において、下敷きにしていただきたいというふうに思います。

さて、健康寿命でございますが、これは、WHOが2000年にこの言葉を公表したということでございます。2000年というのは、私、また松丸議員が当選したミレニアムという会派の年でございました。時間がたって、現在、厚生労働省は2010年に統計、WHOにおくれること10年ですね、たつて、2012年6月に発表した日本人の健康寿命、男性は70.42歳、女性で73.62歳ということでございます。いわゆる介護にならない、認知にならない、そういったものを、自立した生活していくということが基本の健康寿命、ここに着目をさせていただきました。このきっかけとなったのが、私の父、また義理の父であります認知症の先生の診断を下った、また、私50になったときにたばこをやめて6キロ太りました。以上から、たばこをやめると、6割は成人病になるんだよという忠告を受けて、私、体重9キロふやしてしまいました。その後、歩いたり、走ったりした中で、ひざを壊しまして、何だか、健康に向かいながら、不健康になってしまったという結果でございます。それは、私個人のごとでございますので、市民の目線で、先ほどの質問ではないんですが、市民目線でものを考えれば、健康で過ごしていきたいということが、市民にとっても望まれるところだと思います。そんな中で、まず先に、市川議員から先ほど、国民健康保険に関する質問がありました。私もその後の不健康な時期というのは、平均年齢と健康寿命を引いた、その年で考えると、男性は約10年、10年が病気の時間であり、女性は14年間も介護とか、いろいろな病に伏すとかいろいろなときが14年間あるということでございます。そういったものを考えると、やはり不健康な時期というのは、できるだけ短縮された方がいいということでありまして、本人にとってもありがたいことでございます。そんな中で、不健康な、まあ、不健康な期間というのは変なんでしょうけれども、その間に対しての施策や、また結構金額もかかっているかと思っております。先ほど市川議員からの質問と重なるところがあるかと思っておりますが、細かいことはいいです。施策と、金額ですね、これ、ざっくりちょっとお答えいただきたいと思っております。

○議長(松丸修久君) 保険福祉部長横瀬 博君。

○保健福祉部長(横瀬 博君) お答えします。

不健康な期間というのは、つまり、病気になったり、介護保険の適用になったり、そういう形になってしまうような状況になったときのことを言うのかと思います。まず、守谷市の介護保険の対象者の現状を申し上げます。平成25年1月末現在ですけれども、第1号被保険者、65歳以上ですけれども、1万644人で、そのうち、要支援認定者が147名、要介護認定者が1,008名で、合わせると、1,155名が認定を受けておまして、認定率は、10.9%となっております。要支援、要介護認定者のうち、在宅サービスを利用している方が、744名、グループホーム利用者が、48名、施設サービス、これは特別養護老人ホームですけれども、あと、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、合わせますと、243名。サービス利用者は、合計で、1,035名で、その受給率は、89.6%となっております。また、要支援、要介護になった方に対しては、介護保険サービスがありまして、要支援、要介護状態の方へ、その状態の軽減、悪化防止に役立つよう、医療と連携して、提供しております。例えば、利用が多い介護保険サービスとして、通所介護、デイサービス、通所リハビリテーション、デイケアがあります。このほかに、保健センターでも、一般の健康な人から、ハイリスク者まで対象になった、健康教育を実施しているのは特設で、ハイリスク者では、糖尿病患者や、糖尿病予備軍の方を対象に、糖尿病教室、糖尿病の患者団体である野菊会というサークルがあるんですけれども、これに健康教育を実施しております。あと、その経済的に、これらの費用はどのくらいかというような質問ですけれども、介護保険サービスで、介護保険特別会計の中で、保険給付ということで、予算化しております。これ、25年度の予算計上で申し上げますと、要介護、同程の方保険給付費が、21億8,771万9,000円、これは、介護給付費ですから、これは、0.9、1割は個人負担になりますので、それを逆に0.9で割りますと、費用としましては、約24億3,000万かかっているような状況になります。

それから、あと先ほどの国保ですね。国保の費用で病気になってしまいますと、当然医療費かかまして、それらの国保の方から、あくまでも国保の対象者ですけれども、1人当たり25万円で、約、年間38億円かかっております。

後期高齢者の方になりますと、1人当たり81万円とかなり大きく費用がアップしまして、総額で、31億円かかっているような状況になっております。以上です。

○議長(松丸修久君) 梅木伸治君。

○19番(梅木伸治君) 先ほど市川議員からの答弁にもありましたように、国保、いわゆるその不健康な時期に対する経済的なものというのは、非常に大きいと。特に、後期高齢者になりますと、1人当たり80万以上のお金がかかっているというような状況のようでございます。そういう意味では、健康寿命というのは、できるだけ延ばしていきたいというのは、私の思いでございますし、また、年配の先輩方の思いでもあるのかなというふうに思います。また、過日、文教福祉常任委員長の高橋議員の発議により、認知症サポーター100万人キャラバンですか、こちらの方も、多くの議員が参加して、勉強させていただきました。その中の資料の中に、年齢が高くなると、認知症の出現率は急増と。75歳から79歳で7.1%、80から84歳で14.6%、さらに、85を越すと、27.3%ということでございます。先ほど私の父、また、義理の父の話もしたから、やはり年齢とともに、認知症の数が増える。認知症というのは、その瞬間にわかるのではなくて、なって振り返って2年間ぐらい、その人生、その人の生活態度を見ると、もうそのときに認知症だったんじゃないのかなということが多々ございました。そういう意味では、その瞬間から、もっと手前から、ものを、事を、起こさなくてはいけないのではないかなというふうに思います。その中で、今度は、健康寿命を延ばしていく、その対策について、ちょっと詰めていきたいと思っております。24年度の施政方針、これ市長の施政方針でございますが、その中には、第五期高齢者福祉計画、介護保険事業に基づき、介護予防事業を積極的に進めるということが書かれています。25年になりますと、介護保険につきましては、計画どおり引き続きやっていきますよというような一行の文面になってしまいましたが、もう少し、健康寿命に関して、神経質になってもいいのかなというふうに思います。当然住みよさランキング1位を目指す守谷市でございますから、その中で、やはり、健康が1番だというのは、だれしも考えることかと思っております。その中で、今、これから、その健康寿命対策について、質問するわけですが、その中で、守谷市食育推進計画というものを、資料として見せてもらいました。これは、議員各位全員の方は見ているかと思いますが、その中で、私が注目したのは、自分の年齢も含めて、40歳から50歳、この変化についてなんですけれども、あなたは食事で気を付けていることはありますか。ということと、40から50の、その40代から50代に移行するその瞬間に、例えば、野菜を食べるが、78から132、そして、3食必ず食べるが、33から88、50代になると、一気に健康に関しての関心が強まる。また、カロリーに関して、40代は23人、しかし、50代になると、41人の方がなる。そういうふうなところを見ると、やはり50代の人たちが非常に関心が、一気に高まるわけでございますが、逆に言うと40代の方が、いま一歩余り健康に関心が無いのかなという感じがします。やはり、働き盛り、また、まだお子さんも小さい方もいらっしゃるかと思います。そんな中で、自分の健康ということ、なかなかないがしろにしてしまっているところがあるのかなと思っておりますが、やはり、もう、40代ぐらいから、例えば、歯の健康とか、食の健康とかいうものに、もう少し注目していいのではないかなというふうに思います。そんな中で、健康寿命の対策について、お尋ねしたいと思います。

○議長(松丸修久君) 保険福祉部長横瀬 博君。

○保健福祉部長(横瀬 博君) 健康を延ばすために、健康をできるだけ、寿命を延ばすことが重要であるわけですが、けれども、茨城県民の健康寿命は、男性では、71.32年、全国で5位、女性では、74.62年、全国7位となります。平均寿命は、全国平均を下回っているものの、健康寿命では、全国平均を上回る結果となっております。市では、生活習慣病の予防対策が、不健康な期間を少なくしていくことにつながるということで、次のような形で取り組んでいるわけです。まず一つとしまして、医療保険者である、守谷市国民健康保険が実施する40歳から74歳までの被保険者を対象とした特定健康診査、特定保健指導と、茨城県後期高齢者医療広域連合が実施する健康診査を、守谷市は委託を受けて、実施する後期高齢者医療の被保険者を対象とした後期高齢者健康診査利用です。それから、25年度から、国民健康保険においては、第二期守谷市特定健康診査等実施計画期間となります。後期高齢者健康診査とあわせて、第一期の結果を踏まえまして、受診率、これは先ほども意見が出ましたけれども、質問ありましたけれども、29年度目標が、60%です。それと、保健指導率の向上を図りまして、より多くの方が、いつまでも健康で生活できるよう事業を推進してまいります。また、守谷市民の特定健康診査では、血圧、血糖の@22.06者が多く、県内ワーストの上位となっていることから、血圧と血糖の生活習慣病対策を重点的にやりたいと考えております。この、血圧と、糖尿病を予防するには、また、健康を保つには、やはり、食事が大きく影響するということを考えております。そういうことから、今年度策定した食育推進計画を推進してまいります。特に、先ほど議員が言われたとおり、40歳以上の食につきましては、計画書の中にありますけれども、成人期における取り組み目標としまして、四つ掲げてあります。一つとしましては、バランスよく3食食べましょう、食べようということと、二つ目、減塩しよう、やはり血圧低下のためには、上げないためには、減塩ということですね。あと、野菜をとるようにということ。それから、食育を広げようという、これらを推進していきたいと思っております。具体的な取り組みとしましては、特定健康診査会場を活用しまして、減塩みそ汁の試食による減塩キャンペーンを実施、また、公民館等共同による講座により、野菜を食べようを実施する予定です。あと、自治会やサークル団体等を対象に、食育推進につきまして、今後地域に入って、その説明を開催していきたいというふうに考えております。そのほかの、要支援、要介護状態にならないような介護予防ですけれども、この事業では、何らかのサービスを利用しないと、要支援、要介護状態になる可能性がある特定高齢者、これは、要支援を受ける一歩手前の方ですね。特定高齢者に対し、いきいきプラザげんき館や、南守谷児童センター、ミ・ナーデを会場としまして、通所事業を社会福祉協議会に委託して実施しております。通所事業には、平成23年1月末現在で、96名の方が登録されており、延べ2,482名の方が利用しております。事業内容としましては、午前中に健康体操を行いまして、午後は趣味活動として、絵手紙や習字、音楽活動などを行っております。また、これらの食育とかそういう利用ですけれども、そのほかに、市では、生涯学習課でもスポーツや文化活動の関係で、健康維持、健康寿命の対策ですね、そちらについても取り組んでいるところでございます。以上です。

○議長(松丸修久君) 間もなく正午になろうとしておりますが、このまま、梅木伸治君の一般質問を続行したいと思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(松丸修久君) それでは、引き続き、一般質問を続行いたします。

梅木伸治君。

○19番(梅木伸治君) 皆さんの協力ありがとうございます。10分以内には終わらせたいと思っておりますので、ご協力よろしくをお願いします。

さて、今、答弁の中で、茨城県民の健康寿命は、男性で、71.32で、全国5位、女性では、74.62歳ということでございました。自治体単位でというのは、なかなかこれは数字は出しにくいのかなというふうに思うところでございますが、健康寿命を都道府県別で言うと、男子は、愛知県で71.7歳なんです。そうすると、0.4歳ぐらい違う、なんと、1位になれるということと、さき申し上げましたとおり、健康寿命というのは、できるだけ皆さんで協力して、早く気づくことが大切なのかなと。先ほど答弁の中に、健診が一番だというふうなこともございました。当然早期発見、早期対応、早期対応ということが大切だとは思いますが、その健康診断に至る以前のところに、私は目を向けていいんじゃないかなと。いわゆる、この食文化、食に関して、もう少し力を入れてもいいんじゃないかなという感じがしてしております。そんな中で、先ほど市長の施政方針、若干ボリューム的には、健康というところでは、ちょっと遠ざかってしまったような気がするんですけども、健康寿命の日本一を目指すような、そんな施策、また、そんな感覚、そんな考え方をぜひとも市長にお願いしたいなというふうに思うところでございます。その辺ちょっと、市長の方から。

○議長(松丸修久君) 市長会田真一君。

○市長(会田真一君) 先ほど、議員のお話で、9キロ太ったとか、6キロ太ったとかのお話がございますが、私も実は、30代に大学卒業して、大学終わって、こっちに戻ってきてから、10年間で、75キロまで行きまして、これはいけないということで、こっちは毎晩のように、夜々太るのを食べたりきながら、85キロまで行きまして、これはいけないということで、一生懸命ダイエットをいたしました。最高でやせたのが、70キロ若干切る程度まで行っただけですが、現在はまた戻ってまいりまして、74キロから5キロになってしまいました。何とか70キロ以下にしたいなと、先ほどのお話にあったように、60を過ぎましたら、血圧が上がってまいりまして、年齢とともに上がって、血圧の薬を飲むようになってしまいました。やはり、お医者さんに言われるのは、ともかく体重を減らせようという言葉を聞きます。やはり、野菜を多くとりなさいよとかいうことを言われておりますので、当然、さき野菜をとりましょうという講座を開きたいというような話がありました。市民の皆さんで、そういうその健康に対して、意志を持つということは大変重要なことだと。すべての面で、国保もそうですし、介護保険料もそうですし、皆さんでそういう意識を持つということは、大変重要なことだと思いますので、お金のかかることではそんなにありませんので、そういう意識を高めるための努力を市役所あげて、そして、これは議員にもお願いをしていかなければならないし、いろいろのところで、みんな健康になりましょうというふうなキャンペーンなどは、大変いいことだということに思いますので、何かの機会にそういったことを、盛り上げて、健康日本一のまちづくりを目指すことは大変いいことだと思います。ぜひ頑張っていきたいと思っております。

○議長(松丸修久君) 梅木伸治君。

○19番(梅木伸治君) 私の質問よりも、市長の最後のご意見が非常に重要でございました。本当に健康寿命を延ばしていくという思い、守谷市全員でやっけていきます。私たち議員もそれに伴って、協力できるところは、精いっぱい協力していくという思いでもお待ちしておりますし、全員、議員、そういう思いでいるかと思っております。そのために、いろいろな施策、アイディアを出しながら、協力していきなというふうに思います。議長もダイエットしたということとでございます。成人病にはくれぐれも気をつけて、市長としての任務をしっかりと遂行していただきたいというふうに思います。

きょうはどうもありがとうございます。

○議長(松丸修久君) ここで、梅木伸治君の一般質問を終わります。

○保健福祉部長(横瀬 博君) 先ほど、梅木議員への答弁の中で、一部を訂正させていただきたいのですけれども、いきいきプラザげんき館や、南守谷児童センター、ミ・ナーデの通所事業の登録人員を、23年1月末現在で96名と申し上げますけれども、25年1月末現在です。訂正させていただきます。よろしく申し上げます。